

2019 年度神奈川県男女共同参画審議会の主な評価について

進捗状況全体

- これまで年度末に発行していた男女共同参画年次報告書を、2019 年度は審議会の評価を盛り込み、9月に発行する点は評価する。
- 審議会評価は、事業レベルのものはすぐに生かすべき。予算が必要なものは、来年度予算に盛り込むべき。
- 審議会評価への対応状況を、翌年度の男女共同参画年次報告書に記載すべき。
- 目標値に達した目標は、プランの計画期間中であっても、改定を検討すべき。目標値に達していない目標については、所管課の評価が必要。

重点目標	主要施策	評価
重点目標 1 あらゆる分野 における男女 共同参画		○プラン全体を通じて一番核になるところであり、且つ県庁の努力でできる取組みが多いが、 目標値に対して厳しい進捗となっており、更なる取組みが必要。
	政策・方針決定過程への女性の参画	○目標 1「県職員の幹部職員に占める女性の割合」は、目標値に対して厳しい進捗となっており、期間内に目標値を達成できるかが課題。県幹部職員への女性の育成・登用にはトップのコミットメントが必要。 ○目標 2「県の審議会等における女性委員の割合」は、目標値 40%に達していない審議会への働きかけが必要。目標達成のためには女性委員を何人増やす必要があるのか、どのような方策を取るのかを示す必要。
	民間における政策・方針決定過程への女性の参画	○目標 3「民間事業所の女性管理職の割合」は、目標値に対して厳しい進捗となっており、期間内に目標値を達成できるかが課題。 ○「女性管理職育成セミナー」など当事者向けの取組みが引き続き必要。
重点目標 2 職業生活の充 実とワーク・ ライフ・バラ ンスの実現		○ 目標に対して実績値が順調に推移している。 テレワークなど多様な働き方を推進する取組みを、引き続き着実に推進すべき。
	長時間労働の是正と多様な働き方の促進	○ワーク・ライフ・バランスの仕組みづくりやフレックスタイムを取り入れるなど、働きやすい職場環境づくりに関する事業者向けの働きかけが必要。 ○県も事業者として、長時間労働を是正するためのモデル的な施策を実施し、成果を民間に発信するなどの取組みが必要。

重点目標	主要施策	評価
重点目標 3 男女共同参画 の面から見た 健やかで安心 なくらし	<p>配偶者等からの暴力防止</p> <p>配偶者等からの暴力被害者への支援</p> <p>ひとり親家庭に対する支援</p>	<p>○多くの相談が寄せられた LINE を活用した女性相談など、取組みは<u>順調に進んでいる</u>。</p> <p>○目標 1 「夫婦間における次のような行為を暴力と認識する人の割合」で最も少ない「交友関係や電話を細かく監視する」は、このような行為も DV にあたるとの啓発が必要。</p> <p>○DV に関する中高生向けの気づき講座は、県内全ての県立・私立の中高で実施すべき。</p> <p>○目標 2 「母子家庭等就業・自立支援センター事業による就業者数」は、目標値に対して厳しい進捗となっている。</p>
重点目標 4 男女共同参画 社会の実現に 向けた意識改 革と基盤整備	<p>子ども・若者 に向けた男 女共同参画 意識の醸成</p> <p>育児等の基 盤整備</p>	<p>○若い世代の固定的性別役割分担意識の解消が進み、2019 年度の保育所等利用待機児童数が 3 年ぶりに減少するなど、<u>概ね順調に進んでいる</u>。</p> <p>○県の様々な男女共同参画の取組みについて、県民の理解が進まないことは大きな課題。</p> <p>○目標 2 『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ』という考え方について『そう思わない』18～29 歳の人の割合は、若い人の意識がこれほど変わっているという点は評価する。学生や生徒向けの出前講座等の取組みを引き続き実施すべき。</p> <p>○目標 3 「保育所等利用待機児童数」は、待機児童が大きく減っている。県は自治体間の仲介をするなど、調整を担うべき。</p>
重点目標 5 推進体制の整 備・強化	<p>進行管理</p>	<p>○「女性活躍推進法に基づく推進計画の策定率」の実績値が伸びてきており、<u>概ね順調に進んでいる</u>。</p> <p>○計画未策定の市町村に対しては、講座開催や策定効果の周知などが必要。</p> <p>○男女共同参画基本計画の改定をする際に女性活躍推進法に基づく推進計画と一体化した計画にすることが現実的であり、市町村の基本計画改定スケジュールを踏まえた働きかけが必要。</p>